

「福岡教育大学との連携による研究プロジェクト」理科教育  
 自由ヶ丘南小学校公開授業研修会(6/13)5年2組 授業者 池田豊 教諭  
 生物分野における新しい理科授業モデルの開発

単元名「生命につながり2～植物の成長～」

導入

前時までの既習事項を振り返り  
 児童全員集中しています。  
 姿勢・学習の準備・聴く態度ができています。



共同研究者・参加者

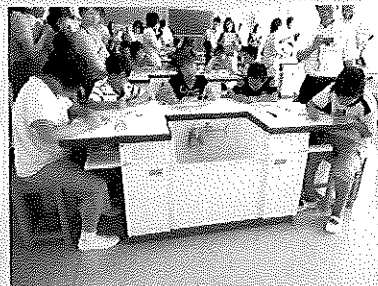
福岡教育大学 伊藤教授・西野教授・鈴木教授・坂本教授  
 小中学校 守先生(赤間小学校)田代先生(福岡南小学校)  
 石川先生(東郷小学校)長井先生(自由ヶ丘小)  
 田中先生(自由ヶ丘中)  
 宗像市教育委員会 後藤理事 田中

これまでの振り返りでは全員が挙手し発言しようとしています。  
 背筋が伸び、挙手の手もびんと伸びています。



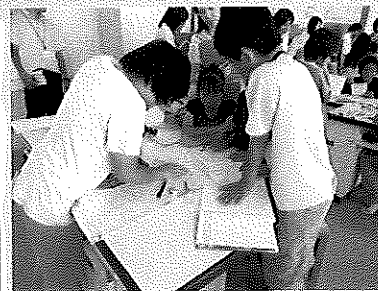
問題把握

今日のめあてを児童の発表からつくりました。  
 そのめあてに対し自分の考えを全員が書いています。



展開

交流場面1  
 比べる活動2自分の考えを班で出し合い比べます。  
 比べた考えから実験方法を班で一つ作り上げます。

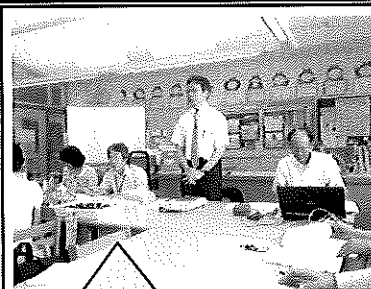


展開

交流場面2  
 班で考えた実験方法を全員の前で発表します。



終末考察結論づけ  
 7班の考えが出され実験方法についてそれでいいか検討しあい意見を出し合います。  
 最後まで児童の姿勢が崩れることなく集中できています。



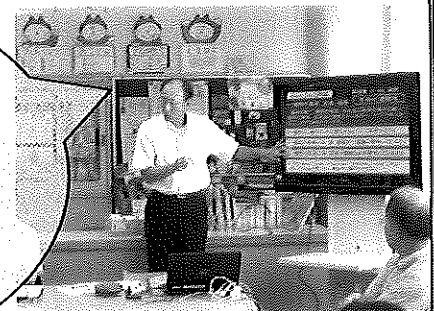
教材の有効性について  
 福岡教育大学 西野教授の指導助言  
 生物・地学は実験観察がしにくいといわれてショックでした。しかし今日は生物分野で研究授業に挑戦していただいて大変うれしいです。  
 種まきから20日目肥料ありなしの状態を見た児童の驚きの声ですべてをものがたっていると思う。  
 児童の学習規律がきちんとしていた。授業の展開が問題解決的になっていた。  
 これから教師をめざす学生に見せたかった。



西野教授から教えていただいた生物教材  
 「ファストプランツ」を活用した授業を考えました。  
 1年中いつでも室内で栽培観察実験ができる理科生物教材としてアメリカで開発されたアブラナ科の植物。ライフサイクルが35日～40日種まきから開花まで2週間。  
 教室でリアルタイムで観察ができます。この教材は栽培が容易で事前の準備期間があまり必要としないメリットがあります。  
 生物分野は時空間的に授業実践が難しいのですがそのことを克服できる教材と言えます。

※校区の小中一貫教育の推進をより深めるためのプロジェクトです。  
 ※今年度は理科教育・ICT教育・特別支援教育で行います。  
 今後いろいろな教科で実施をめざします。  
 ※授業づくりに新風を吹きこむことで学力の向上につながっていきます。  
 ※大学とつながることで質の高い授業実践ができます。

展開の  
 比べる活動2の有効性について  
 研究分担者の赤間小学校主幹教諭の守先生から助言をいただきました。  
 比べる活動が理科の問題解決の過程に位置づけること、何のための比べる活動2なのかを考えたことが大事です。



次回の本プロジェクトの授業及び 公開授業研修会  
 6/19 ICT部会 玄海中学校 (研究関係者のみ)  
 6/25 ICT部会河東西小学校 (公開授業研修会)